b-22) ブッポウソウ

i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブック－2 鳥類(環境省　2002 年 8 月)」[2)]に絶滅危惧 II 類、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物－レッドデータブックさが－(佐賀県環境政策局環境企画課　2000 年 12 月)」[6)]に情報不足種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、日本では、本州、四国、九州に夏鳥として 4 月下旬～9 月中旬まで渡来し、やや局地的に繁殖する[10)17)]。

低地、山地の大木のある林、スギ、ヒノキ林、大木のある社寺林等で繁殖する[10)]。樹上性で、見晴らしのよい枯れ枝の先等にとまって辺りを見張り、セミやトンボ等大型の昆虫を空中で捕える[10)17)]。単独又はつがいで行動する[17)]。

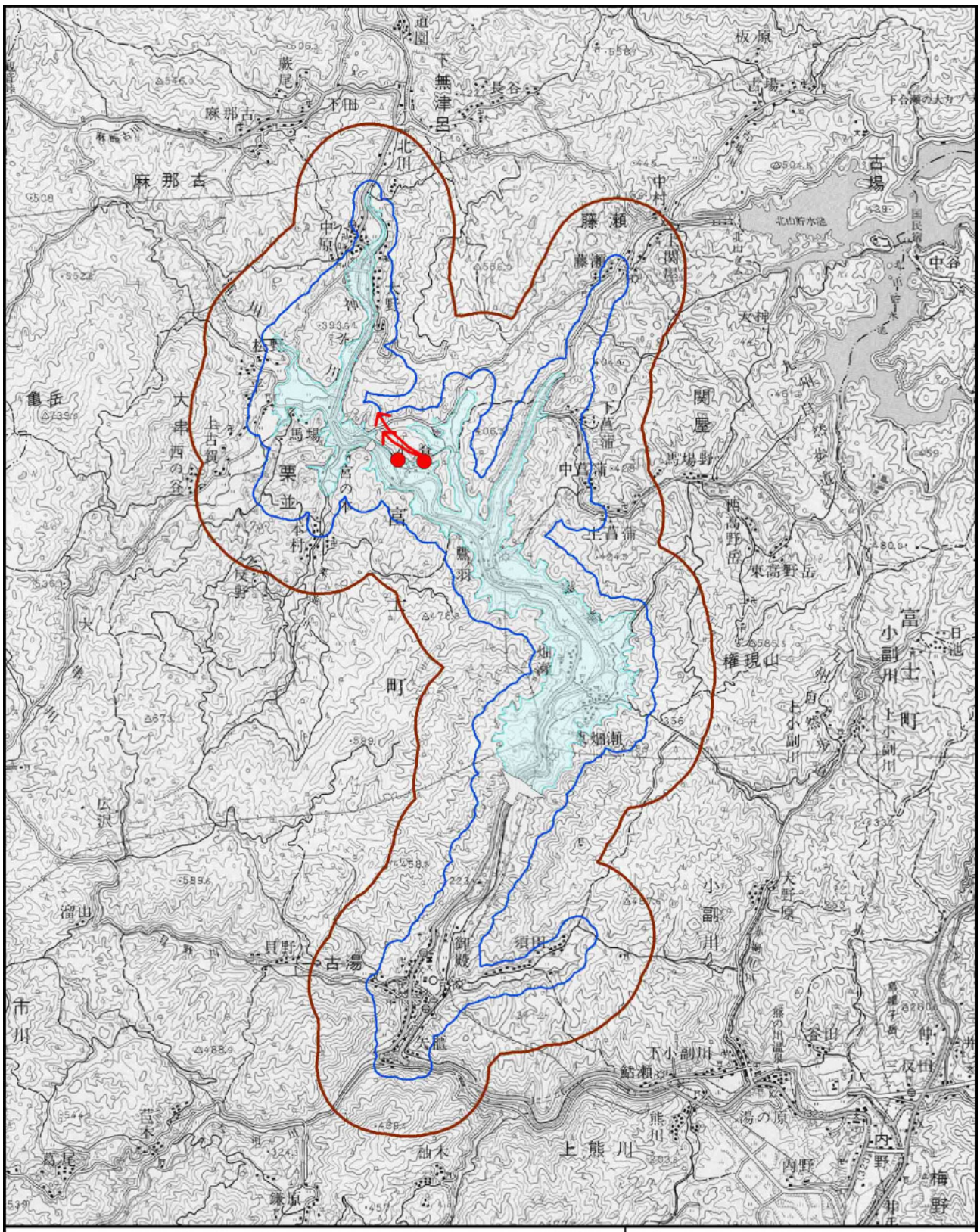
かつては巨木の樹洞やキツツキ類の古巣等に営巣していたが、近年においては橋げたやビル等の人工構造物でも営巣を行うことが知られており、多くのフクロウ類同様、巣箱を利用することが知られている[10)]。

iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-4(12)に示す。

本種は、重要な種を対象とした平成 15 年度の調査において、繁殖期である 5 月及び 6 月に大野地区の小ヶ倉集落周辺で 5 例の止まり及び飛翔が確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域において、小ヶ倉集落周辺の確認地点付近の樹林で繁殖している可能性が考えられる。



凡　例

- ：ダム堤体
- ：副ダム
- ：貯水予定区域
- ：対象事業実施区域
- ：調査地域
- ：確認地点

1:50,000

0　1　2km

図4.1.5-4(12)
ブッポウソウ確認地点

b-23) オオアカゲラ

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物－レッドデータブックさが－(佐賀県環境政策局環境企画課　2000 年 12 月)」[6)]に情報不足種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、北海道から本州、四国、九州、奄美大島に留鳥として生息する[12)]。

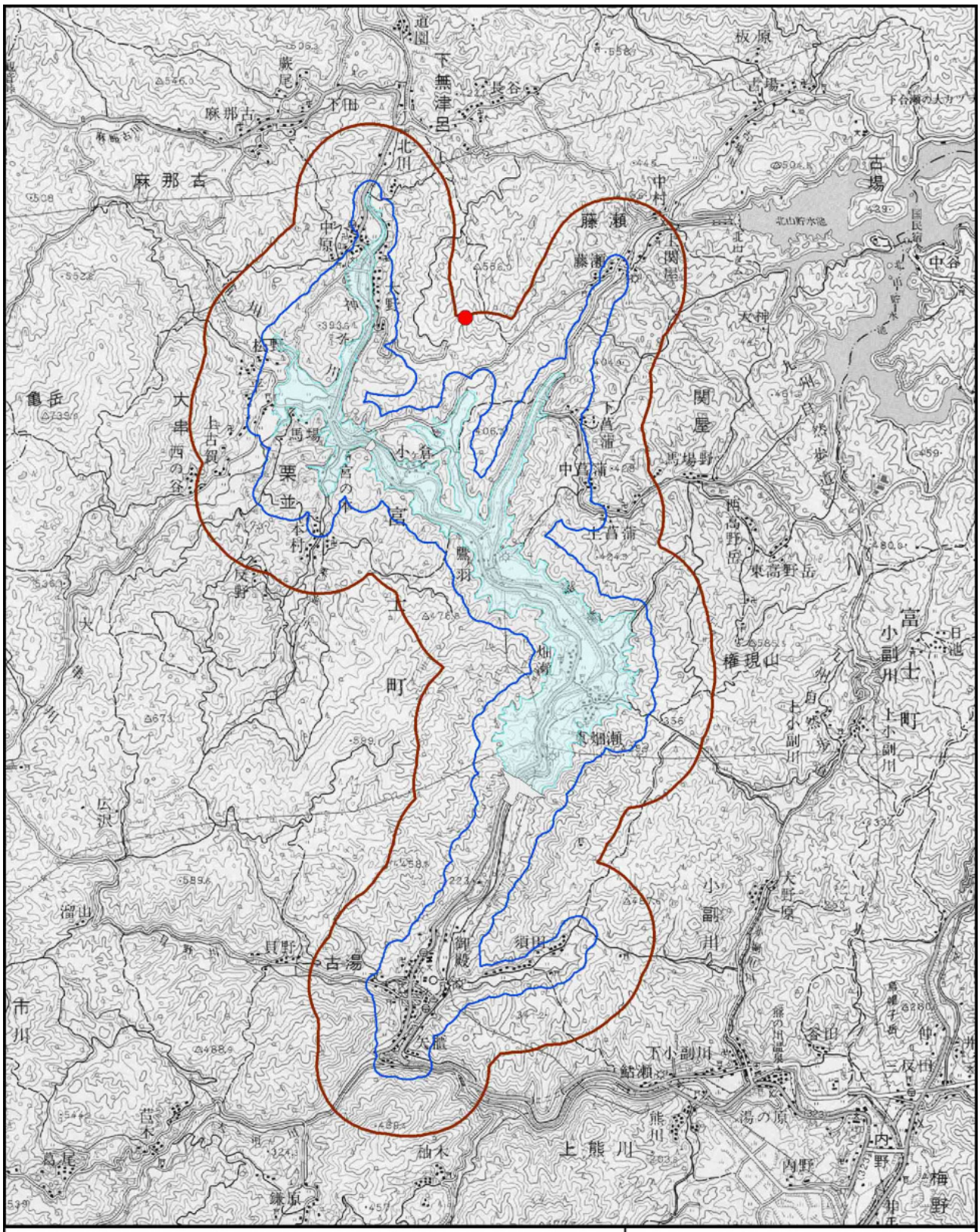
低山帯、亜高山帯の樹林にすむ[12)]。大きい樹木の多い常緑広葉樹林、落葉広葉樹林、針広混交林で見られるが、原生林や自然木の多い森林地帯に多く、二次林や造林地にはあまり現れない[12)]。特に巨大な枯死木や倒木のある林を好む[12)]。もっぱら枯れ木で採食することが多く、アリ類、甲虫の幼虫等を食べる[12)]。繁殖期は 3 月～6 月頃までで、一夫一妻で繁殖する[12)]。巣は枯死木に雌雄共同で掘る樹洞である[12)]。単独またはつがいでいることが多い[12)]。約 200ha ぐらいの広い縄張りをもって分散する[12)]。

iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-4(13)に示す。

本種は、平成 14 年度冬季の生態系の調査において、大野地区の大野集落東の山間部の混交林内で 1 個体が確認された。

生態情報から、本種は、原生林や自然木の多い森林地帯に多く、二次林や造林地にはあまり現れないとされており、スギ・ヒノキ植林が卓越する当該地域では定着していないと考えられる。また、確認例も少ないことから、本種は当該地域を主な生息地としていないと考えられる。



凡　例

- ：ダム堤体
- ：副ダム
- ：貯水予定区域
- ：対象事業実施区域
- ：調査地域
- ：確認地点

1:50,000

0　1　2km

図4.1.5-4(13)
オオアカゲラ確認地点

b-24) ヤイロチョウ

i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブック－2 鳥類(環境省　2002 年 8 月)」[2)]に絶滅危惧 IB 類、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物－レッドデータブックさが－(佐賀県環境政策局環境企画課　2000 年 12 月)」[6)]に絶滅危惧 I 類種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、日本では、夏鳥として西南日本に 5 月上旬より 9 月上旬まで渡来するが、個体数は少なく、渡来状況も不安定である[6)10)]。本州中部以南、四国、九州で繁殖が確認されている[19)]。九州北部では特に少ない[6)]。佐賀県内では、黒髪山、経ヶ岳、石谷山、伊岐佐[6)]における記録がある。

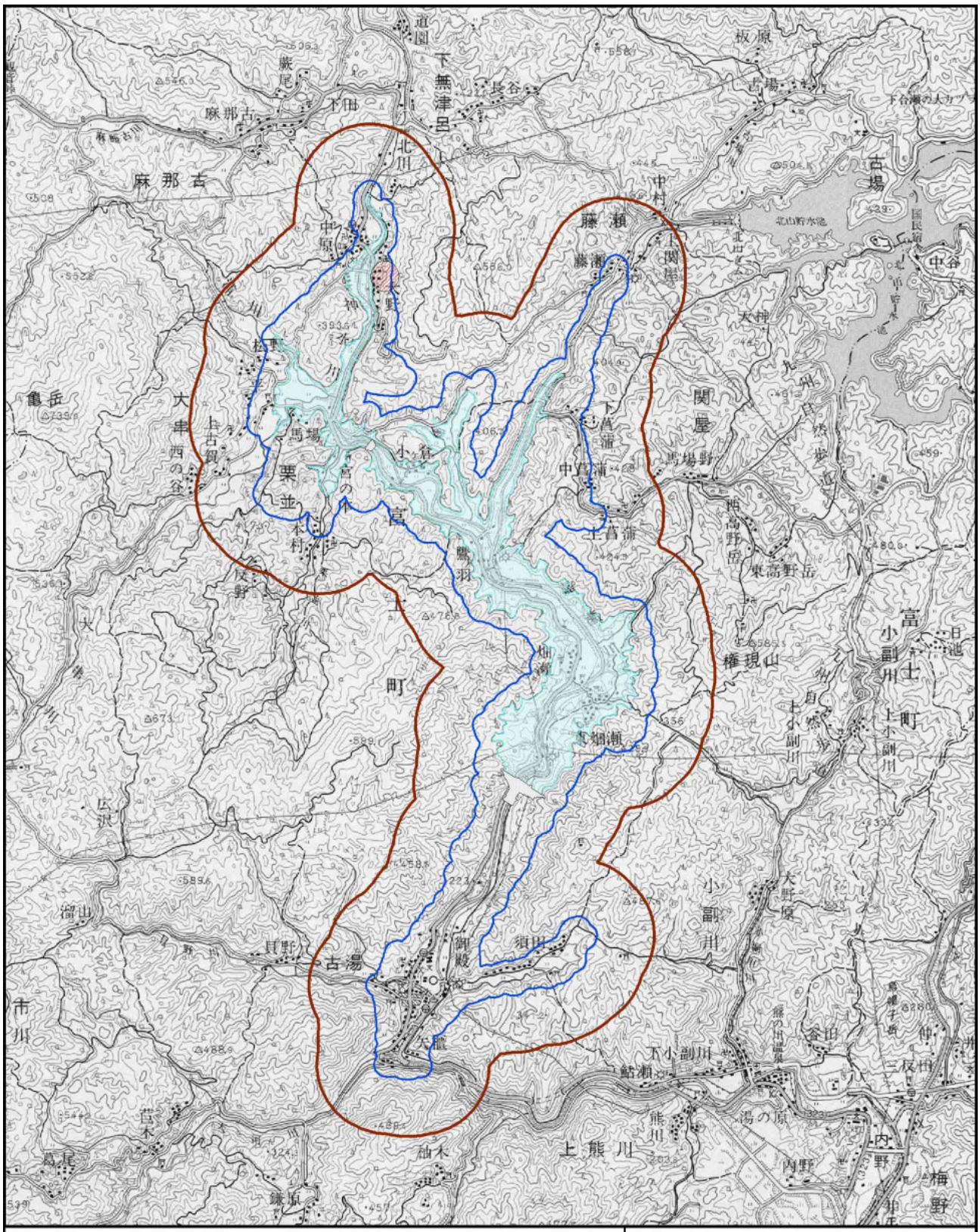
大木の茂った暗い常緑広葉樹林内に生息する[10)]。山地で急峻な斜面にはえた林を好む[19)]。地上性で、地上をはね歩いて移動する、林中をまっすぐ飛ぶ、地上をすばやく走る、等の行動をとる[10)19)]。頑丈なくちばしで落ち葉の下からミミズ等の小動物を捕える[10)]。繁殖期にはつがいで縄張りを持つ[10)]。

iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-4(14)に示す。

本種は、フクロウ及びアオバズクを対象とした平成 15 年度の調査において、5 月末に大野地区で鳴き声が 1 例確認された。5 月末は本種の渡来の時期であり、移動途中の個体が確認された可能性が考えられたため、繁殖期である 6 月中旬に調査を実施したが、本種は確認されなかった。

生態情報及び確認状況から、確認された個体は、繁殖地への移動途中に確認された個体であり、本種が当該地域内で繁殖している可能性は低いと考えられる。



凡　例

- ：ダム堤体
- ：副ダム
- ：貯水予定区域
- ：対象事業実施区域
- ：調査地域
- ：確認地点

1:50,000

0　1　2km

図4.1.5-4(14)
ヤイロチョウ確認地点

＊：この範囲内で確認した記録がある。

b-25) カワガラス

i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブック－2 鳥類(環境省　2002 年 8 月)」[2)]や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物－レッドデータブックさが－(佐賀県環境政策局環境企画課　2000 年 12 月)」[6)]に掲載されていないが、「県内で希少」という専門家の指摘により重要な種とした。

ii) 生態

本種は北海道から本州、四国、九州、屋久島まで留鳥として繁殖する[12)]。佐賀県内では、鳥栖市石谷山[14)]における記録がある。佐賀県では留鳥[13)]とされている。

低山帯から高山帯までの河川にすみ、川の上流部で岩や大きい礫の間を清流がぬって流れる所を好む[12)]。川の下流部や河口部にはいないが、中流部の河原の発達した氾濫原には出てくる[12)]。しばしば、コンクリートで固められた灌漑用水路にすみついて繁殖する[12)]。水生昆虫、特にトビケラ類、カワゲラ類、カゲロウ類等の幼虫を捕え、時には小さい魚等も捕える[12)]。繁殖期は 3 月～6 月だが、九州では 12 月～翌年の 4 月[12)]である。巣は水辺近くの岩の割れ目や窪み、滝の裏側の岩の窪みに作り、最近では橋げたの下や水門の隙間等の人工物にも作る[12)]。外装には大量のコケ類を使い、ドーム型で入り口は側面に開き、内装には枯れ草や枯れ葉を使う[12)]。

iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-4(15)に示す。

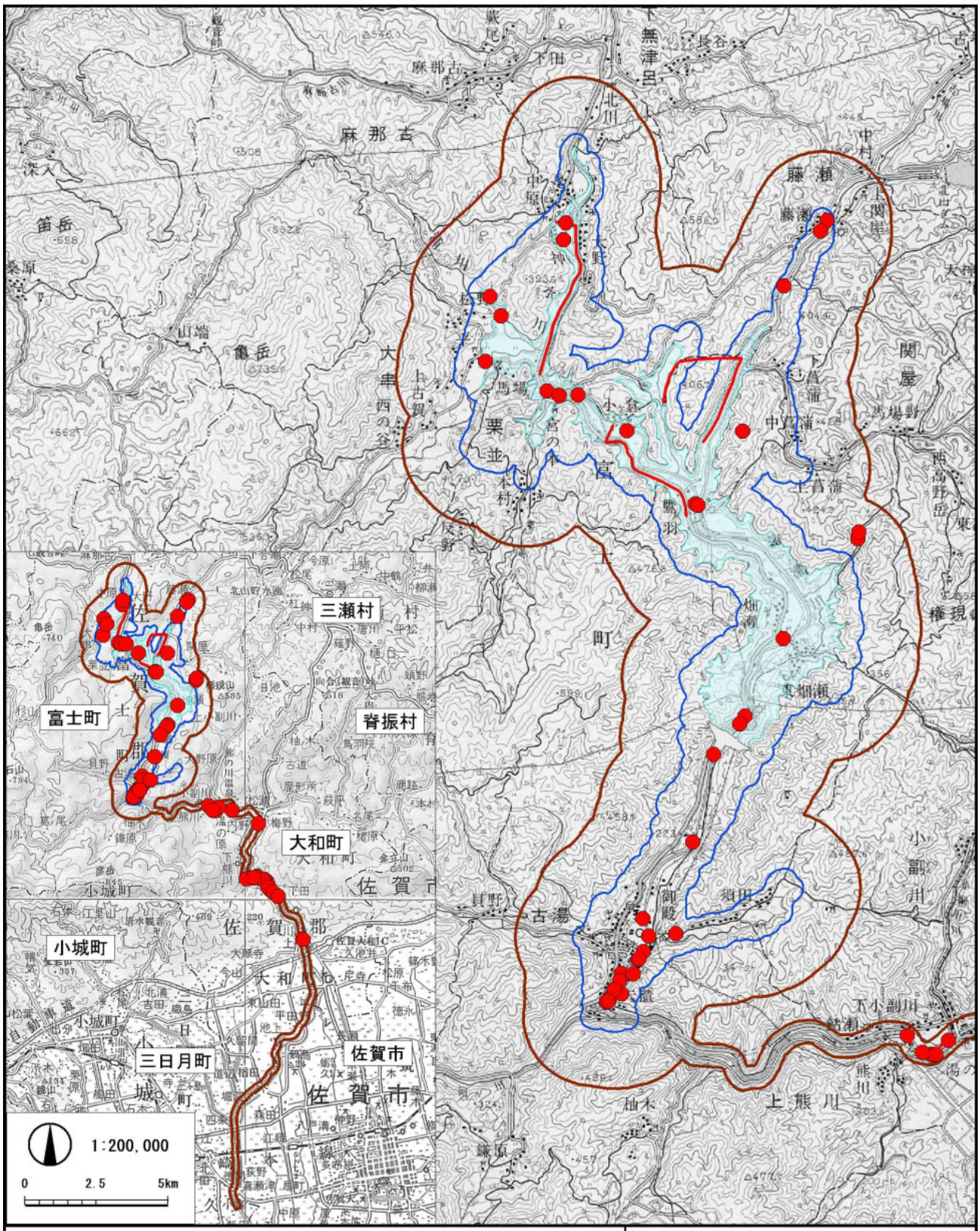
本種は、平成 5 年度、6 年度、9 年度、13 年度及び 14 年度の調査において、中原地区 1 地点、藤瀬地区 2 地点、大串地区 3 地点、大野地区 17 地点、関屋地区 2 地点、栗並地区 5 地点、畑瀬地区 5 地点、古湯地区 14 地点、小副川地区 6 地点、上熊川地区 7 地点、嘉瀬川の官人橋から名尾川合流点までの区間

18 地点、嘉瀬川の嘉瀬川大堰から官人橋までの区間 1 地点、合計 81 地点で飛翔や鳴き声が確認された。また、平成 7 年度、9 年度～11 年度及び 15 年度の環境巡視において、藤瀬地区 1 地点、大串地区 1 地点、大野地区 2 地点、関屋地区 1 地点、栗並地区 1 地点、古湯地区 6 地点、小副川地区 4 地点、合計 16 地点で確認された記録がある。

このほか、詳細な位置情報等の記録がないが、昭和 60 年度及び平成 5 年度の調査において嘉瀬川、神水川沿い等の経路上で、平成 7 年度、8 年度及び 13 年度の環境巡視において、確認された記録がある。

確認地点の環境は、「渓流的な川」や「山地を流れる河川」(「」内の環境については「4.1.7 生態系」を参照)であり、採餌行動等が確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、嘉瀬川の上流部から中流部の河川沿いを採餌場や繁殖地として利用し、広い範囲に生息していると考えられる。



凡　例

- ：ダム堤体
- ：副ダム
- ：貯水予定区域
- ：対象事業実施区域
- ：調査地域
- ：確認地点

1:50,000

0　1　2km

図4.1.5-4(15)
カワガラス確認地点

＊：この経路内で確認した記録がある。